

# 名詞句の代用表現

富田博文

## 1. はじめに

名詞句の代用語 *one/ones* は、言語形式と言語形式との間に成立する文法形態上、テキスト内の照応関係に基づくものであるのに対して、同一指示 (*reference*) は指示機能を持つ言語形式が人称代名詞によって、指示された現実世界のもの (*referent*) との間にとり結ぶ関係によって規定されるものなので、代用とは区別されるべきである。次の (1) が名詞句の代用と、(2) が同一指示の例である。

(1) James bought a wonderful old brick house, and I bought a wooden *one*.  
 — Ross, 1967, p. 61

(2) a. I bought a book about semantics. *It* was very interesting.  
 b. The old man was here yesterday. *He* has gone to London.

(1) の *one* は、先行のテキスト内にある *house* を先行詞として受け、文法形態上、主要語名詞句として機能し、(2a) の *It* は *the book about semantics* を、*He* は *the old man who was here yesterday* をそれぞれ同一指示的に人称代名詞で受けているのである。同一指示の場合は、代用とは異なって、先行詞の数・性に関して一致していなければならないのである。つまり、先行テキストが同定した指示物を、まるごと、過不足なく、引き断がなければならないのである。

それに対して、代用語の *one/ones* は、つねに名詞句の主要語 (*head*) として用いられ自らが名詞句の主要語となっている語のみの代用をする。例え

ば、次の (3) をみることにする。

- (3) I shoot the hippopotamus  
 with bullets made of platinum  
 Because if I use leaden *ones*  
 His hide is sure to flatten'em.  
 (H. Belloc, "The hippopotamus")

— Halliday & Hasan, 1976, p. 91

代用語の *ones* は主要語名詞句の位置に生起し、修飾語である *leaden* を伴い、先行詞として、主要語である *bullets* を先行文脈の中に求めることができる。

また、動詞句の代用の場合と同様に、「つながり」(cohesion) の立場からみると、名詞句の代用も後方照応 (cataphoric) の場合もあるが、潜在的には前方照応的 (anaphoric) であると言える。その点では指示 (reference) に類似している。本稿では談話法的機能の視点から、名詞句の代用を考察することにする。

## 2. 代用語 *one/ones* の諸機能について

英語では、名詞句の代用語は *one/ones* である。代用語の *one(s)* は名詞句の主要語として働く。また、代用語は必ず限定詞や修飾語句 (前位修飾と後位修飾語句) を伴い、必ず名詞句の主要語の位置を占め、代用語の *one* の機能がなによりも、名詞句であることを意味することになる。

- (4) a. This view is very much a minority *one*, however, and I shall not adopt it in this book.  
 b. The identification of generative grammar with mentalism is a relatively recent development, and *one* which a number of generative grammarians avoid. — D. Crystal, 1971, p. 105

(4) における 2 つの名詞句, (4a) では *view* と *one*, (4b) では *development*

と **one** は節の中で同じ文法的機能をもっている必要がないのである。どちらの名詞句も、名詞句が持つ主要語としての機能を果たすなら、例えば、(4a) は「限定詞＋名詞」と「限定詞＋形容詞＋**one**」、(4b) は「限定詞＋形容詞＋名詞」と「**one**＋関係詞節」というように、対応する代用表現が、先行する名詞句と文法的機能がそれぞれ異なってもかまわないということである。代用の場合は、主要語名詞句でありさえすればよいのである。

また、前出 (3) の場合も同じように考えられる。**one** を主要語としてもつ名詞句も、その先行詞の名詞句も、名詞句が文中でとりうる位置・機能をそれぞれ自由にとることができる。例えば、(3) では、一方は前置詞句の目的語として機能しており (*with bullets made of platinum*)、他方では動詞の目的語として機能しており (*use leaden ones*)、文法的機能は異なっているが、いっこうに差し支えないのである。つまり、二つの名詞句が、文中の文法的機能に関して、お互いに独立的である現象と平行的なものである。

(4) の代用語は同一文中にあるために、代用それ自体が照応辞である **one** はつながりの確保の役割をそれほど果していない。しかし、次の (5) のように、文の境界を越えても、代用は使用することができる。

- (5) If only I could remember where it was that I saw someone putting away the box with candles in I could finish the decorations now.  
— You mean the little coloured *ones*.

— Halliday & Hasan, *op. cit.*, p. 91

(5) の **ones** は、*candles* の代用語として、前方照応的に用いられ、このような照応関係の中で二つの文を結びつける役割を必要かつ十分に果たしていると考えられる。つながりは、談話内のある構成素の解釈が他の構成素の解釈に依存しているところに生じる。一方は他方を前提とする。つまり、前提とするものと、前提とされるものとがテキスト内に統合され、首尾一貫 (*consistency*) することをいうのである。つながりは、単一の文中で生じることもあれば文境界を越えたときでも二文に一貫性をもたせる効果を十分に発揮しているのである。また、前提とする項目 *candles* が複雑な文構造の中に深

く埋め込まれてはいるが、聞き手は、最も一般的な条件である「復元可能性」(recoverability)の原則に基づいて、容易にそれを復元することができるのである。つまり、話し手(speaker)は、自分の伝達したいことを、聞き手(addresssee)に最も素直に伝わるような形に整えた上で、発話(utterance)を行なう必要がある。前後の脈絡を整え、述べられていることがお互いに呼応し、一連のまとまりのある統一体としての体裁をなすように、情報を組み立てるということで、必然的に、文の範囲を超えた談話(discourse)の領域まではいっていくことになる。最も一般的な言い方をすると、既知事項と未知事項との区別がわかるようになっており、既知事項である旧情報 *candles* を代用語である *ones* で受け、未知事項である新情報 *coloured* が付け加えられて、話し手は談話の流れを推し進めていくのである。

また、代用語 *one* はその先行詞の数(number)と異なることがある。次の例では、先行詞は単数形 *cherry*, *trip* であるのに対して、照応辞である代用語は複数形の *ones* で受けている。

(6) a. *Cherry ripe, cherry ripe, ripe I cry.*

*Full and fair ones* — come and buy.

— Halliday & Hasan, *op. cit.*, p. 91

b. *The trip wasn't like the ones long ago.*

(6) のように、先行詞が単数形でも代用語が複数形の *ones* をとることができるということは、先行テキストの先行詞は、つねに可算名詞(countable noun)であり、実質名詞(mass noun)を受ける代用語は存在しえないということである。この件に関しては、代用語の *one* と数詞(numeral)の *one* は語源的には同一で、代用語の *one* は数詞的色彩を帯びていることが、歴史的にも説明できることから、理解できるだろう。

(7) a. *\*I prefer Dutch cheese to Danish one.*

b. *I prefer Dutch cheese to Danish.*

c. *I prefer Dutch cheese to Danish cheese.*

(7a)は *cheese* が実質名詞であるために、非文になっている。しかし、(7b)のように、その先行詞の実質名詞 *cheese* を省略したり、(7c)のようにその先行詞を繰り返すと文法的な文になる。

更に、次の (8) をみることにする。

- (8) a. *These biscuits are stale — Get some fresh ones.*  
 b. *This biscuit's stale — Get some fresh  $\emptyset$ .*

(8b) では、代用の唯一の可能な形態であるゼロによる代用 (*substitution by zero*) であり、意味的には、省略 (*ellipsis*) は代用と極めて類似している。したがって、省略は代用語 *one* を含まない一種の代用だと解釈することができる。

(7) と同様に、(9) のように集合名詞 (*collective noun*) の場合も不可算名詞なので、*one(s)* で代用することができない。

- (9) a. *All the old knives have been replaced by new ones.*  
 b. *All the old cutlery has been replaced by new (\*one/\*ones).*  
 c. *All the old cutlery has been replaced by new cutlery.*

また、次の (10) をみることにする。

- (10) *My cheap camera seems to be just as good as John's expensive one.*

(10) の場合は、代用語 *one* によって引き継がれているのは、先行テキストの *my cheap camera* の主要語である *camera* だけである。引き継がれていない部分は、主要語名詞句の中の名詞以外の部分である。最も典型的には、その部分は形容詞的語句であると容易に考えられる。したがって、代用語を用いる場合は、先行語句の主要語は引き継がれ、その修飾要素は引き継がれないのであるから、先行語句と *one* を含む名詞句の代用表現との間には、当然、対比 (*contrast*)、すなわち、対比要素が生じることになる。*one* を含

む代用表現は、先行テキストの主要語名詞句の中の名詞部分を旧情報として引き継ぎ、新しい情報を担う新しい修飾要素、すなわち、対比要素とを結びつけることによって、談話を推し進めてゆく言語的仕組みであると考えられる。名詞句の代用語 **one** は、動詞の代用語 **do** と同様に、名詞句の主要語の位置を確保して、その位置を占めるべき名詞句は先行テキストに見つけられると言う「場所取り」(place-holder)の役割を果たしているのである (Halliday & Hasan, 1976, p. 92)。

例えば、次の (11) をみることにする。

(11) They passed through a small clear area, then a larger *one*.

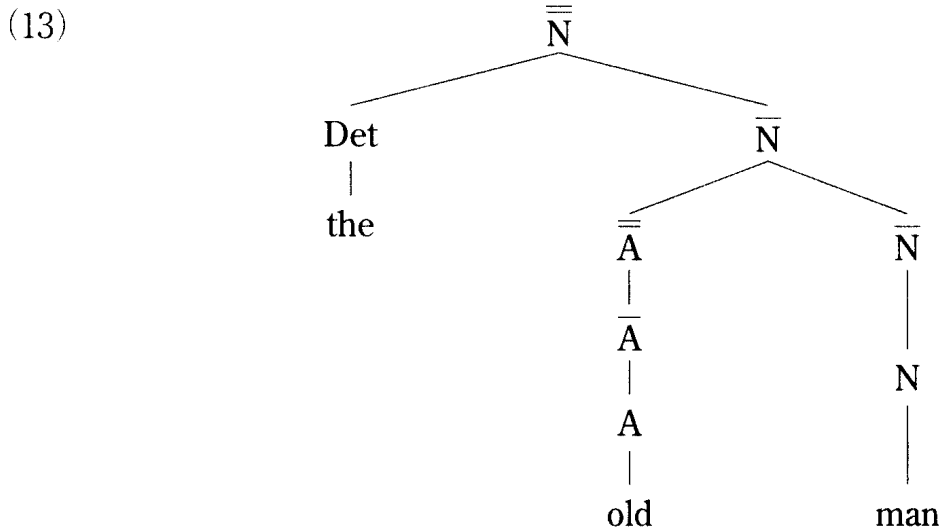
(11) の **one** の先行詞 **area** を修飾する二つの形容詞のうち **small** が引き継がれないことは、**one** を修飾している **larger** の存在によって明らかで、この場合、**clear** に対立する形容詞が **one** の修飾要素の中に見いだされないことが重要である。つまり、この場合、**clear** は引き継ぎを拒まれていないのである。換言すれば、**one** を先行詞としているのは、単に **area** の一語ではなく、**clear area** であると言える。例文 (11) も、これまでの名詞句の代用語 **one/ones** の典型的使用例である、先行詞の一部は引き継ぎ、一部は引き継ぎを拒むという中心的機能とは異なっていないのである。

また、次の (12) を見ることにする。

(12) John talked with the old man from Cleveland and also talked with the *one* from Chicago.

後位修飾語の存在によって、**from Cleveland** と **from Chicago** が対比要素であることが理解できる。しかし、名詞句の代用語 **one** の先行詞は、**man** なのか、**old man** であるかに解釈することによって、曖昧性 (ambiguity) が生じることになる。最近の GB (統率束縛) 理論では、**lexical category** (語彙範疇) と **Phrasal category** (句範疇) との間に中間の範疇を設定することによって、この曖昧性を説明している。つまり、N の最大投射 (maximal projec-

tion) である  $\overline{\overline{N}}$  と  $N$  との中間の範疇である  $\overline{N}$  を設けることで説明することが可能である。



名詞句の代用語 *one* が (i)  $\overline{\overline{N}}$  ( $\overline{\overline{N}}$  から Det を取り除いた部分) を指すと先行詞は *old man* となり, (ii)  $N$  を指すと先行詞は *man* となる。

Jespersen (1909—49, pt. 2, §. 10. 14) は, Sweet (1892—92, pt. I, §. 180) の支柱語 (prop-word) を拡大解釈することによって, (i) 前方照応的 (anaphoric) *one* と, (ii) 独立的または非照応的 (independent; non-anaphoric) 用法に区分している。例えば, 次の (14) を見ることにする。

- (14) a. Give me a book, an interesting *one*.  
 b. one tall man and two short *ones*  
 c. He is a knowing *one*. (彼は物知りだ)

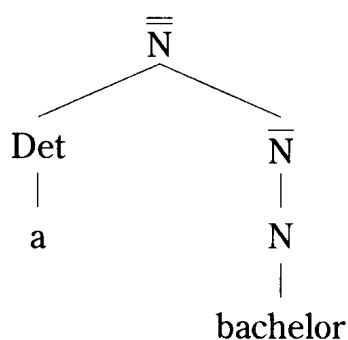
(14c) の *one* が, Halliday & Hasan (1976) の言う代理名詞 (pro-noun) であり, 原則として「人」のみに用いられる名詞, 単数形 *one* [=person], 複数形 [=people] の両方の形を持つ (14a-b) の代用語 *one* と異なって, 独立的あるいは非照応的に単独で用いられ, 先行文との照応関係も持たず, 文意の「つながり」(cohesion) の保証する力がないので, 代用語とは区別する必要がある。したがって, 本稿では支柱語 *one* の (i) の前方照応的

用法のみ考察の対象とする。

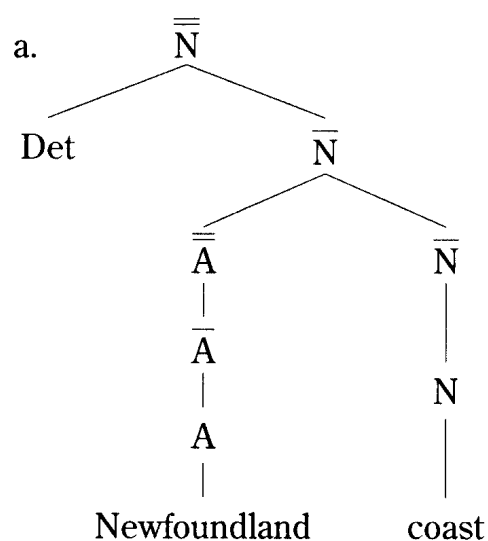
- (15) a. He was a bachelor and now at fifty was likely to remain *one*.  
 b. The Newfoundland coast is a peculiarly dangerous *one*.

前出 (2) のように、同一指示 (reference) の人称代名詞が先行詞と同一の物あるいは人 (token) を表わし、テキスト内の先行詞に依存しないのに対して、前方照応の支柱語は先行詞と同一種類の物あるいは人を指す。例えば、(15a) では、前出 (12) のように、代用語 *one* の先行詞は  $\bar{N}$  で、(15b) の場合では先行詞は N あるいは  $\bar{N}$  のいずれにも解釈可能である。この事実を  $\bar{X}$ -Convention ( $\bar{X}$ -規約) で表わすと次の (16), (17) のようになる。

(16) (=15a)



(17) (=15b)



しかし、(15a) の *one* を代用語の *one* と見なすかの判断は微妙である。なぜならば、代用語は常に修飾語句を伴わなければならないからである。

次の (18) の例は、先行テキスト内に対比すべき先行要素を欠く修飾語句の場合である。

- (18) There was a piano player — a very pretty good *one* — and he



**gave me a nice blues to work with.**

話し手は談話の流れの中で、暗示的に言語形式として、先行テキスト内 **there was a piano player** というようにある特定のピアノ奏者を登場させ、話し手が先行文脈で特定化している先行詞に対して、新しい局面、新しい観点を導入していることだと考えられる。次の (19) についても同じようなことが言える。

(19) **Do you remember that thunderstorm we had the last time we were here? — That's a terrifying one!**

先行テキストに対比要素となる修飾語句がないにもかかわらず、話し手によって、新しい視点から、旧情報である **thunderstorm** を先行詞として代用語 **one** で引き継ぎ、新情報である修飾語句 **terrifying** が、新たに加えられたものだと考えることができる。また、(18) の場合は後半に続く **and he gave me a nice blues to work with** の無標 (**unmarked**) の解釈をすると、「ある特定の一人のピアノ奏者」となり、話し手の意図している意味と相容れなくなってしまう。この無標の解釈は、代用語 **one** の存在によって回避されることになるのである。

(20) a. **We have no coal fires; only wood ones.**

b. **Did you light fires? — Only wood ones.**

これまで、代用は必ず旧情報である代用語 **one** に引き継ぎを拒否 (**repudiation**) する新情報である修飾語句を伴わなければならないと繰り返し述べてきた。この拒否という概念は、代用 (省略を含めて) を理解する手掛りを与えてくれるのと同時に、代用と同一指示との区別をはっきりと説明してくれる。拒否の概念は、次の二通りに区別される。つまり、前方照応的な文脈においては、何らかの要素が先行テキストから引き継がれる。引き継がれるものは、前にあったもの全体の場合もあり、ほんの一部分のこともある。一

部分だけの場合は、引き継がれなかった残りの部分は拒否せざるをえない。例えば、(20a)では、firesは前方照応的に引き継がれているが、coalは拒否されている。意味論的には、先行文脈で述べられている事実を考えると、今新しく述べられている事実は、ある意味では、新しい部分集合となる。このことは、(20a)のように、前に指定された部分集合の場合もあるし、(20b)、(18)、(19)のように先行テキストでは何も指定されていないのに、談話の流れの中で、話し手によって、新たに指定された部分集合の場合もある。

最後に、次の(21)をみることにする。

(21) Ah! but you should have seen the one that got away.

名詞句の代用は基本的には、テキスト内照応で前方照応でなければならない。しかし、(21)は外界照応(exophoric)の例である。この場合も、むしろ、明示的(explicit)に示されていないが、次の(22)のように、先行テキストの存在が前提となっていると考えるべきかもしれない。

(22) That's a good sized  $\left\{ \begin{array}{l} \text{trout} \\ \text{one} \end{array} \right\}$  you've got there.

事実、漁師は、(21)の発話よりも前に、(22)の発話をしている場面を想像することも不可能ではない。このように考えると、名詞句の代用は潜在的には、前方照応で、代用語oneの先行詞となるべき主要語名詞句は、通例、先行テキストの中に明示的な言語形式として存在しなければならないことになる。

### 3. まとめ

これまで述べてきたように、代用語の中心的機能は、名詞句中の主要語の機能を果たす代用カウンターであり、主要語名詞句のみ先行テキストから持ち越しことになる。したがって、代用表現には、この旧情報を担うカウンターに、何らかの新しく導入された修飾要素が付加されるのが常であり、その修

飾要素が、対比要素として、新情報を担い、談話の流れを押し進めてゆく働きをすることになる。したがって、音調の中心 (nucleus) を代用語 one の上に置かず、対比要素の置くことも理解できる。

更に、名詞句の代用 one とその他の用法の one をまとめて整理すると次のようになる。

(23) A. I'm fed up with this watch.

1. The thing never works.
2. My old one worked all right, but this one's hopeless.
3. The thing I want now is a solid state microchronometer.
4. Perhaps I'll get one.

B. I like the new manager.

1. The man's really efficient.
2. The previous ones were hopeless, but this one knows his job.
3. The one we need now is a new technician.
4. Perhaps he'll appoint some.

A, B いずれも1. は一般名詞 (general noun) の thing, man である。これは前文とのつながりの働きをしている。2. 代用語の one である。3. は他の名詞の代わりをする thing, one であって、前文とのつながりの働きをしていない。the thing, the one は what で言い換えることができ、疑似分裂文 (pseudo-cleft sentence) となっている。4. 非限定的役割の one, some であって、microchronometer, technician が省略されともものとみる。

最後に、名詞句の代用表現を、手元にある言語学の入門書である D. Crystal の *Linguistics* (1985) と E. Sapir の *Language* (1957) を Text とし、網羅的に収集した例をあげることにする。

24. (A) 限定的+形容詞語句+one

1. It is certainly a possible explanation, though at the moment it is an extremely vague one.

2. The association must be a purely symbolic *one*; in other words, the word must denote, tag off, the image, must have no other significance than to serve as a counter to refer to it whenever it is necessary or convenient to do so.
3. We must remember too, in this connection, that it is not simply a question of keeping single terms constant in meaning in making our analysis, but of keeping the relationships between whole sets of terms constant also, and bearing in mind the effect of introducing a new term, or redefining an old *one*, on the definitions of the other terms used hitherto.
4. In short, it is best in language matters not to mention the word 'logic', but to talk instead in terms of regular and irregular forms, showing how there is always a tendency for the irregular forms in language to be made to conform to the pattern of the regular *ones* — a process called *analogy*, which is at work in the *spoonful* example above.
5. Generally speaking, however, their way is the essentially academic *one* of providing a detailed initiation into the discipline of linguistics, and they tend to be lengthy and technical: appropriately so, given their purpose.
6. As I have already remarked, the distinction is a useful, even a necessary, *one*, but it has been generally obscured by a number of irrelevancies and by the unavailing effort to make the terms cover all languages that are not, like Chinese, of a definitely isolating cast.
7. We see the fore at once that language as such is not and cannot be definitely localized, for it consists of a peculiar symbolic relation — physiologically an arbitrary *one* — between all possible elements of consciousness on the one hand and certain selected elements localized in the auditory, motor, and other cerebral and nervous tracts on the other.

8. My own usage, in this book, has been the more restricted *one* [grammar=morphology and syntax]; but in what follows it will be necessary to use the term in its wider sense.
9. Intermingled with this scientific prejudice and largely anticipating it was another, a more human *one*.
10. Imitation is an important factor in the development of language, but it cannot be the major *one*, and thus the basis of any
11. In characteristic talk exchanges, there is a common aim even if, as in an over-the-wall chat, it is a second order *one*, namely that each party should, for the time being, identify himself with the transitory conversational interests of the other.
12. There are, of course, also not a few instances of transitions between groups I and II and I and III, as well as of the less radical *one* between II and III.
13. The first 'component' of this grammar is in many respects a familiar *one* (to people familiar with the earlier history of linguistics): Chomsky adopts an IC analysis to provide information about the constituent structure of sentences.
14. If neither of the two sounds into which an old *one* "splits" is a new sound, it means that there has been a phonetic leveling, that two groups of words, each with a distinct sound or sound combination, have fallen together into one group.
15. The written forms are secondary symbols of the spoken *ones* — symbols of symbols — yet so close is the correspondence that they may, not only in theory but in the actual practice of certain eye-readers and, possibly, in certain types of thinking, be entirely substituted for the spoken *ones*.
16. The modern approach to syntax is very much a reaction — sometimes a quite explicit *one* — against the emphases and principles of this early period, which consequently must be looked at in some de-

tail.

17. Or, again, remove the new-born individual from the social environment into which he has come and transplant him to an utterly alien *one*.
18. Is there, after all is said and done, a fundamental difference between a qualifying concept like the negative in *unhealthy* and a relational *one* like the number concept in *books*?
19. At the very beginning of the Middle English period, therefore, we find that the old paradigm has yielded to a more regular *one*:
20. To appreciate the basis of the complexities and extent of these discussions — and these days much of it seems irrelevant to the main tasks of linguistics (which is why this section is to be a fairly short *one*) — we must remember to take account of the intellectual climate of the time.
21. This second position certainly seems far from an orthodox empirical viewpoint. The opposition may of course be a false *one*.
22. This view is very much a minority *one*, however, and I shall not adopt it in this book.

(B) 形容詞語句 + ones

1. More complex hypotheses are: ‘sound-changes are regular’, ‘bilingual people are less intelligent than monolingual *ones*’, ‘animal communication has nothing in common with human language’.
2. The only measures of assessment which seem capable of being turned into something concrete are relative *ones*.
3. Now in addition to the syntagmatic relationships that we can see in a language, there are also *paradigmatic ones* (Saussure’s term was ‘associative’, but the mentalistic overtones of this were too much for subsequent researchers who wanted to make use of the basic idea).

4. But for some speakers the convention does not specify a particular expression, and new *ones* are manufactured as they are needed.
5. A clear distinction between the two is essential, as I suggested earlier (p. 88), but it has often not been made, and the two have sometimes got very mixed up, theoretical problems usually being ignored at the expense of procedural *ones*.
6. It would, after all, be perfectly possible to write a grammar which would tell us what all the grammatical sentences of a language were, but which would in so doing tell us about a number of ungrammatical *ones* as well.
7. And the only way in which we can explain how I know this is by postulating that I have learned a rule which tells me how to form passive sentences from active *ones*, and vice versa.
8. But if we are to derive all passive sentences from active *ones* by a single, simple rule, we *need* to specify a subject in the deep structure of this sentence.
9. There linguists would find that the problem has not gone completely unnoticed, but that the explanations given are not very helpful *ones*.
10. At that time, linguistics was seen as a 'technique for reducing languages to writing', and the central problems were viewed as methodological *ones*: *how* are the best results to be obtained?
11. Old dialects are being continually wiped out only to make room for new ones.

(C) one + 後位修飾語句

1. We must remember that Chomsky's view of linguistic theory (and *one* which most linguists share) is seeing it as 'an hypothesis about linguistic universals' — in other words, the job of linguistics is to establish the universal design-characteristics which define human lan-

guages.

2. They developed an alphabet different in principle from the writing systems previously known, and *one* which was to be the forerunner of most subsequent alphabets.
3. This collection of spoken and/or written usage which is used to verify our hypotheses about structure is usually called a 'corpus' (plural 'corpora'). A 'corpus-based' approach is *one* which restricts itself to the analysis of a limited sample of language in this way.
4. 'As is the fool to the wise man, so is a grammarian ignorant of logic to *one* skilled in logic,' it was said.
5. In other words, the form of a grammar has now become *one* in which semantic information is considered prior to the syntactic, as the following diagram shows.
6. An empirical test is *one* in which the examination of phenomena takes place under controlled, experimental conditions, the results being available to direct observation and judgement, so that if the experiment were replicated, the same results and the same popular judgements would be obtained.
7. Long sequences of adjectives are uncommon in everyday speech, and the question of adjective order is *one* which receives little mention in traditional grammars.
8. The word *farmer* has an "agentive" suffix *-er* that performs the function of indicating the *one* that carries out a given activity, in this case that of farming.
9. The distinction was *one* which comparative philologists had often confused, but for Saussure — and, subsequently for linguistics — it was essential.
10. The 'emic' approach was thus opposed to an 'etic' approach — that is, *one* in which the physical patterns of some aspect of a language were described with no explicit reference to their function.



11. Educated people in Great Britain for instance will be more likely to speak with a fairly neutral accent than with *one* dominated by regional overtones.
12. This sense of cooperation is simply *one* in which people having a conversation are not normally assumed to be trying to confuse, trick, or withhold relevant information from each other.
13. If one description provides rules which will account for all the available data, this description is likely to be better ('more powerful') than *one* which generates only three-quarters of the forms in the data.
14. The activity being referred to by the sentence would no longer be the *one* taking place at the time of speaking.
15. The more radical solution *Who did you see?* is the *one* the language is gradually making for.
16. A reverse case, *one* in which the grammatically significant elements cluster, as in Latin, at the end of the word is yielded by Fox, one of the better known Algonkin languages of the Mississippi Valley.

調査の結果によると、(A)群の「限定詞+形容詞語句+one」は22例、(B)群の「形容詞語句+ones」は11例、(C)群の「one+後位修飾語句」は16例になっている。このことから、代用語を主要語句として修飾構造となる修飾要素は、前位修飾要素と後位修飾要素との二通りに分けることができる。

前位修飾要素の場合は、(B)群も含めて「(限定詞)+形容詞語句」の結合が基本形であることができる。また、副詞語句・所有格・名詞句(A22)も本来の形容詞語句の位置を占めて限定詞と代用語 *one* との間で前位修飾語句として機能する場合もある。

- (25) (=4a) a. This view is very much a *minority one*, however, and I shall not adapt it in this book.

- b. The festival is originally a *children's one*.  
 c. Any of these additions should be *last minute ones*, when the coffee is being served.

(C) 群の後位修飾要素は、今回の調査では最も頻度が高いと思われた前置詞語句が見当らなかった。一番頻度が高かったのが関係詞節、過去分詞と現在分詞がそれぞれ一例ずつであった。しかし、to 不定詞句は、通常、名詞句の後位修飾語となりうるにもかかわらず、代用語 *one* の後位修飾語にはなれないと指摘されている (Jespersen, 1909—49, pt. 2, §. 10. 522)。

- (26) Considering Admiral James Kirk's comments in his own preface, it may seem strange that he chose me as *the one to write this book*.

「one+to 不定詞句」は代用表現ではなく、(14c) と同じように代理名詞として機能しているのである。

上の用例からも理解できるように、代用の本質は、意味論的なものではなく、文法的な関係に基づくものであることに対応するのである。代用語 *one* の先行詞となる名詞は、通例、先行テキストの中に明示的な言語形式として存在しなければならないことになる。

#### reference

- Halliday, M. A. K. 1970. Language structure and Language function. In Lyons (ed.) 1970. pp. 140-165.  
 —, and R. Hason. 1976. *Cohesion in English*. London: Longman.  
 Quirk, R. S. Greenbaum, G. Leech, and J. Svartvik. 1972. *A grammar of contemporary English*. London: Longman.  
 —. 1985. *A comprehensive grammar of the English Language*. London: Longman.  
 Saito, S. Y. Sato, and B. M. Wilkerson. 1991. *Introducing Generative grammar*. Tokyo: Kenkyusha.  
 Yasui, M. (安井稔) and Y. Nakamura (中村順良). 1985. 『代用表現』東京：研究社。

**text**

Crystal, D. 1985. *Linguistics*. London: Penguin Books Ltd.

Sapir, E. 1957. *Language*.